

平成 30 年度 JERT 主催「救急撮影講習会 in 長野」参加報告記

伊那中央病院 診療放射線科 向山 勇太

平成 30 年 11 月 18 日、長野赤十字病院で開催された「救急撮影講習会 in 長野 カーモンベイビーNA.GA.NO 信濃の国で学ぶ、技師が知っておくべき救急医療～初療の現場から小児救急まで～」を受講しました。

私自身今回、救急撮影講習会へは初めての参加でしたが、熱意のある講師の先生方の非常にわかりやすい説明と見やすいスライドで、明日からぜひ使いたくなるような技術、興味深い講演ばかりでした。

中でも印象深かったのは救急医の丹野先生による「こどものABC」で、特にこどもの呼吸不全に絞った内容の講演でした。私たちの働いているCT室・MRI室で小児が呼吸不全を来しうる病態としてけいれん、頭部外傷、アナフィラキシーがあります。また原因によって呼吸状態の違いがあることがわかりました。小児におけるBVMでの補助換気のやり方、コツを聞いて明日からの診療ですぐに活かしていこうと思いました。私自身、普段症例の少ない小児において急変してしまった時、うまく対応できるか不安なことが多かったのですが、この講演を拝聴できて補助換気の重要性、BVMさえあれば自分にも介入できる行為なのだと改めて認識しました。

また「救急患者をつなぐ～それぞれの視点から～」は脳卒中と外傷の2症例を患者の搬送、救急隊の連絡受けてから病院に搬送され、プライマリーサーベイし、検査、治療に至るまで救急救命士の斉藤先生と救急看護認定看護師の小林先生、救急撮影認定技師の小田切先生、牧野先生に実際の各職種の視点からの講演を拝聴しました。普段聞けない救急救命士の現場での話や看護師の視点の話、何を考えて仕事をされているのかとても興味深い内容でした。中でも共通していたのが他職種でも情報を共有し、どんな患者で何の治療が考えられるのかを常に先を読み、緊急度の高い処置や治療につなげられるか他職種間の連携、コミュニケーションが不可欠であると再認識しました。

最後に「急性腹症の画像診断」ということで放射線科医の亀井先生の読影の講演を拝聴しました。チェックリストを用いながらの読影の仕方でとてもわかりやすかったです。

炎症反応がある際の周囲の脂肪織の濃度上昇をキーワードに実際の症例を見ながらクイズ形式で本当にわかりやすく急性腹症の読影のポイントを拝聴することができました。

私の病院では放射線科医がいない当直をしており、救急医から意見を求められることもあります。常日頃から診療放射線技師として「読影の補助」の重要性を感じている中で、どれだけ見落としがないか、画像を撮影した技師も責任をもって読影をすることが大切であると感じています。今回受講して「読影のポイント」、「救急に携わる技師としてのあり方」など、今後の救急診療に活かしていけるすばらしい講習会であったと思います。

最後にこのような貴重な講習会を開催してくださった機構の方々、会場の準備・設営のスタッフの方々に感謝申し上げます。

平成 30 年 12 月 吉日

